

取組内容について
(評価委員会に提示する評価、現状、達成度について)

	あるべき姿とその方向性	改革プランの目標と取組内容	改革プランの取組予定年度			(上段) 改革プランの目標に対する達成度	
			21	22	23	(下段) H22年度の取り組み	
中央病院の機能	救急医療に貢献	救急医療体制の整備	【目標】 救急マニュアルの整備				【達成度】 100% マニュアルの改定が完了したため達成
			救急マニュアルの改定				・H21年度に救急委員会にて全面改定。 ・H22年度、随時改定を実施。
		< 1次救急 > 軽症から中等症の救急医療への積極的な対応	【目標】 外科1次救急の拡充				【達成度】 50% 医師の確保が未達成
			西宮市南部地区の輪番空白日フォローアップ				・月曜日・金曜日の夜間に輪番担当。それに加え、臨時的に12月30日～1月2日の輪番空白日を担当(計5枠)。 ・今後、スタッフ(医師)を確保して、安定的な実施を目指す。
	< 2次救急 > 消化器、呼吸器を中心とした救急体制の充実	【目標】 消化器、呼吸器の2次救急の拡充				【達成度】 75% 日曜日・祝日等における2次救急拡充が課題	
		2次救急対応の日数拡充				・内科・外科2次救急医療を月曜日～土曜日の週6日間実施。日曜日・祝日等は未実施であるため今後の課題。 ・H22年7月より、毎週火曜日の内科2次救急を夜9時までから翌朝8時までに拡充。	
	小児救急の維持	【目標】 小児救急輪番制の維持				【達成度】 100% 現状の救急輪番体制を維持できた。	
		月曜日・火曜日の小児救急輪番の体制を維持				・月曜日・火曜日の小児科2次救急輪番を引き続き、担当。	
	高度医療の提供	・低侵襲での消化器、呼吸器疾患の治療の実施 ・総合的な糖尿病治療の実施	【目標】 消化器、呼吸器、内視鏡、糖尿病センターの設置				【達成度】 100% 各項目について目標を達成
			専門医及び専攻医(後期研修医)の安定的確保				・H22年4月：呼吸器内科(専攻医)、H22年7月：呼吸器内科(専攻医)、H23年1月：整形外科専門医採用。 ・H21年1月にCTの入れ替えにより、検査の高度化・効率化が図られ、検査件数も前年度件数より増加見込み。(2頁参照)
緩和ケアの提供	提供体制の充実	【目標】 提供体制の充実				【達成度】 100% 各項目について目標を達成	
		7:1看護体制の検討(入院患者数の推移、診療報酬改定による影響を加味)				・7:1看護体制については、入院患者数の推移と看護師の採用状況を比較し、検討を実施。今後も、適宜検討を行う。 ・H22年4月から外来薬剤の院外処方完全実施。 ・その他手術、検査についても、前年度件数より増加の見込み。(下欄参照) ・各種の診療報酬加算についても取得済み。 H21年1月～ 医療安全管理加算 H21年4月～ 糖尿病合併症管理料 H21年7月～ 医師事務作業補助体制加算 H22年1月～ 輸血管理料	
		院外処方の実施(H22年4月)					
		DPC制度の導入(H21年7月～)					
		腹腔鏡手術の増加					
		内視鏡検査・手術の増加					
		外来化学療法稼働率向上					
各種加算の取得(H22年度、診療報酬改定時に追加・更新の検討)							
総合的ヘルスケアへの対応	保健所と連携した総合的ヘルスケア体制の確立	【目標】 緩和ケア病床の整備等				【達成度】 100% 学会認定の取得、緩和病床の設置を達成	
		緩和ケア病床の設置	既存病床の改修による病床整備				・H21年12月に、整備した緩和ケア病床について、学会が認定する研修施設の認定を受ける。 ・H21年4月から、6階病棟の既存病床・2床を緩和ケア病床として改修整備し、運用開始。
			緩和ケア学会認定取得				
		【目標】 人間ドックの拡充				【達成度】 100% 各項目について目標を達成	
医療環境の向上	地域全体の医療向上(院外環境)	半日一般ドックを追加設定(稼働率を考慮しながら、拡充・見直しの検討)				・H20年10月に、半日一般ドックコースを水曜日に8名分追加設定を行い、引き続き拡充実施。 ・H21年4月から、脳つき1日ドックコースを火曜日に4名分新規に設定。	
		脳つき1日ドックの新設(稼働率を考慮しながら、拡充・見直しの検討)					
		【目標】 総合的ヘルスケアの体制の検討					【達成度】 50% 総合的ヘルスケアの充実が今後の課題
		保健所と連携した公衆衛生活動を実施					・保健所と連携して、発熱外来を実施。 ・新型インフルエンザ患者が殺到した西宮市応急診療所を支援するため、内科1次救急を実施。 ・毎週水曜日に行っている特定検診を今後拡充予定。 ・企業健診の受入れの拡充を実施。 ・市民の病気への理解、健康増進に役立つよう、市民健康講座(奇数月)や、糖尿病教室(週2回)を実施。
医療環境の向上	病診連携体制の確立	【目標】 地域医療連携の充実				【達成度】 50% 訪問件数の増加とデータベース構築が課題	
		専門職員の投入				・H21年2月に、嘱託MSWを1名採用し、体制を強化。 ・地域医療連携の実施状況を登録するデータベースを構築し、診療所への訪問活動を記録。 ・H22年10月に、西宮市・宝塚市内の開業医に対し、「地域医療連携アンケート」を実施。	
	病診連携体制の確立	【目標】 県立西宮病院との連携の推進				【達成度】 25% 一定の課題の抽出はできたが、今後、抽出された課題の整理等が必要	
		定期的な協議実施				・県立西宮病院と、市立芦屋病院を加えた3病院ネットワーク会議を7回開催。 ・3病院間における現状把握、方向性の検討、課題の抽出を行う。今後は、課題の整理に取り組む。	
院内の医療環境(院内環境)	安全、快適な医療環境	【目標】 施設の耐震改修				【達成度】 - %	
		平成25年度末までに耐震改修工事に必要な体制を整備				・設計会社へ工法、工期、費用の調査を依頼し、報告書を受領。	

は、改革プランにおける取組予定年度を示す。
は実施したことを示す。

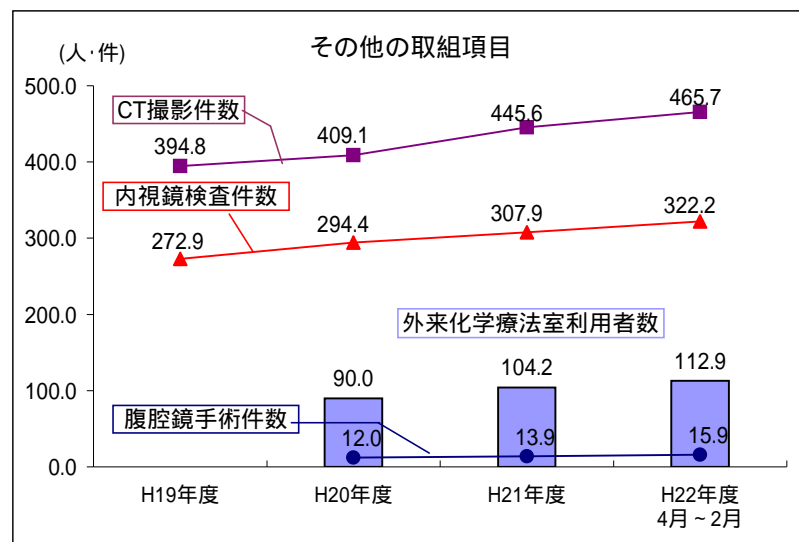
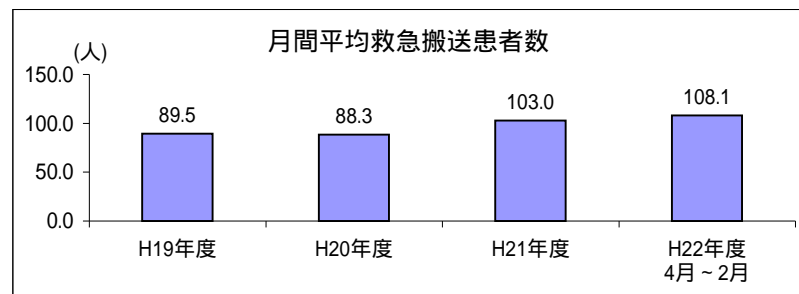
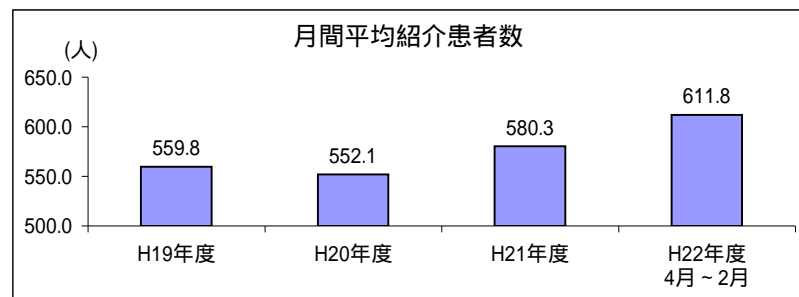
取組内容について (評価委員会に提示する評価、現状、達成度について)

	あるべき姿とその方向性	改革プランの目標と取組内容	改革プランの取組予定年度			(上段) 改革プランの目標に対する達成度 (下段) H22年度の取り組み
			21	22	23	
経営基盤の確立 経営形態・体制	組織・運営体制の強化	【目標】 情報管理の強化と一元化				【達成度】 50% 職員採用と管理体制構築を達成
		医療情報管理部門の設置と運用	////	////		・嘱託システムエンジニア2名を採用し、電子カルテ・院内LAN等の管理業務に専従。今後は、情報の一元化が課題。
		【目標】 経営管理体制の強化				【達成度】 100% 各項目について目標を達成
		経営会議での月次損益管理体制の強化				・経営会議で使用される資料の視覚化を図る。 ・評価委員会を年1回開催し、改革プランの進捗状況の評価等を行う。
		委員会における評価体制の構築と運用				・外来・入院患者を対象としたアンケートをH22年9月に実施、その結果を院内ニュースにて院内職員にフィードバック。
		アンケート調査による患者ニーズの把握				
		【目標】 人材の活用育成と配置整備				【達成度】 50% 評価制度以外の項目については達成
		全職種対象の評価制度導入(試行と本格実施の検討)				・課長級以上の事務職員及び看護部にはラダーによる評価制度を導入。今後は、全職種・役職への拡大が課題。
	接遇研修の実施 (効果をみながら、次年度以降の実施検討)				・外部講師を招聘した全職員を対象とした接遇研修をH21年10月に実施。今後もアンケート結果等を踏まえ、実施を検討。	
	人員配置体制の適正化	////	////		・予約センターの稼働と外来クラークの導入により、外来部門における看護師の配置数を見直し。	
	経営形態の検討	【目標】 地方独立行政法人化の検討				【達成度】 - %
		制度の検討と移行準備 (人事・給与制度、財務・会計制度等の検討等)	////	////		「移転整備等検討委員会」にて、適切な経営形態についても検討予定。
	広報の強化	【目標】 広報の強化				【達成度】 100% 各項目について目標を達成
		広報委員会の設置				
		開業医向け勉強会の実施				・H22年11月に、市民に病院を身近に感じていただくため「病院体験フェア」を実施。315名が来場。
病院紀要の刷新					・H23年1月から「広報連絡員」制度を開始。各所属ごとに連絡員を設置し、院内に埋没している情報を収集し、広報委員会を通じて、対外・対内への広報を図る。	
ホームページの更新						
	病院体験フェアの実施					

//// は、改革プランにおける取組予定年度を示す。
は実施したことを示す。

(別表) 取組内容について

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度 4月~2月	単位
紹介患者数					
内科	1,625	1,628	1,736	1,846	人
外科	541	625	504	577	人
小児科	564	569	672	663	人
その他	3,987	3,803	4,051	3,644	人
合計	6,717	6,625	6,963	6,730	人
(月間平均紹介患者数)	559.8	552.1	580.3	611.8	人
救急搬送患者数					
内科	400	450	607	604	人
外科	252	224	200	198	人
小児科	289	250	267	254	人
その他	133	136	162	133	人
合計	1,074	1,060	1,236	1,189	人
(月間平均救急搬送患者数)	89.5	88.3	103.0	108.1	人
内視鏡検査件数					
胃カメラ	2,470	2,587	2,556	2,567	件
大腸ファイバー	805	946	1,139	977	件
合計	3,275	3,533	3,695	3,544	件
(月間平均件数)	272.9	294.4	307.9	322.2	件
腹腔鏡手術件数					
腹腔鏡手術件数	- - -	144	167	175	件
(月間平均件数)	- - -	12.0	13.9	15.9	件
外来化学療法室					
利用者数	- - -	1,080	1,250	1,242	人
(月間平均患者数)	- - -	90.0	104.2	112.9	人
マルチスライスCT撮影件数					
撮影件数	4,738	4,909	5,347	5,123	件
(月間平均件数)	394.8	409.1	445.6	465.7	件



改革プランと決算見込みとの比較

H22年度決算見込み値と計画の比較

(単位:百万円)

平成22年度	a 改革 プラン	b 決算 見込み	b-a 増減	実績 4- H23.1月
経常収益 A (a1+a2)	5,097	4,520	577	3,765
医業収益 (a1)	4,418	3,819	599	3,247
入院収益	2,103	2,176	73	1,818
外来収益	1,818	1,148	670	969
その他医業収益	497	495	2	461
医業外収益 (a2)	679	701	22	517
経常費用 B (b1+b2)	5,724	5,318	406	4,131
医業費用 (b1)	5,572	5,173	399	4,120
給与費	2,880	2,879	1	2,276
材料費	1,360	872	488	715
経費	1,013	1,109	96	847
減価償却費	287	284	3	261
その他医業費用	32	29	3	22
医業外費用 (b2)	152	145	7	11
経常損益 C (A-B)	627	798	171	366
特別利益 (a3)	4	4	0	2
特別損失 (b3)	4	18	14	2
純損益 D C+(a3-b3)	627	812	185	366

各種指標

指標	改革プラン	決算見込み	増減	実績
医業費用対医業収益比率	126%	135%	9%	127%
給与費(対医業収益比率)	65%	75%	10%	70%
材料費(")	31%	23%	-8%	22%
経費(")	23%	29%	6%	26%
減価償却費(")	6%	7%	1%	8%
その他医業費用(")	1%	1%	0%	1%

指標	改革プラン	決算見込み	増減	実績
1日入院患者数	167.0人	159.0人	8.0人	159.3人
入院単価	34,500円	37,500円	3,000円	37,284円
病床利用率(対稼働病床数)	86.5%	82.4%	-4.1%	82.6%
1日外来患者数	530.0人	508.0人	22.0人	514.5人
外来単価	14,000円	9,300円	4,700円	9,291円

小数点以下の端数処理により増減合計が一致しないことがある。

増減の主な要因

収益

•経常収益(医業収益+医業外収益)は、改革プランに対し 577百万円の見込み。外来調剤の院外処方化により、投薬等の外来収益が減少したことが主な要因。

入院 + 73百万円
 決算見込みでは計画と比べ、患者数は1日平均 8.0人であるが、単価は+3,000円であるため。

外来 670百万円
 決算見込みでは計画と比べ、患者数は1日平均 22.0人であり、単価は外来処方の院外処方化により、4,700円であるため。

その他 2百万円

医業外収益 + 22百万円

費用

•経常費用(医業費用+医業外費用)は、改革プランより 406百万円の見込み。

職員給与費 1百万円

材料費 488百万円

(うち薬品費 498百万円)

経費 + 96百万円

減価償却費 3百万円

その他 3百万円

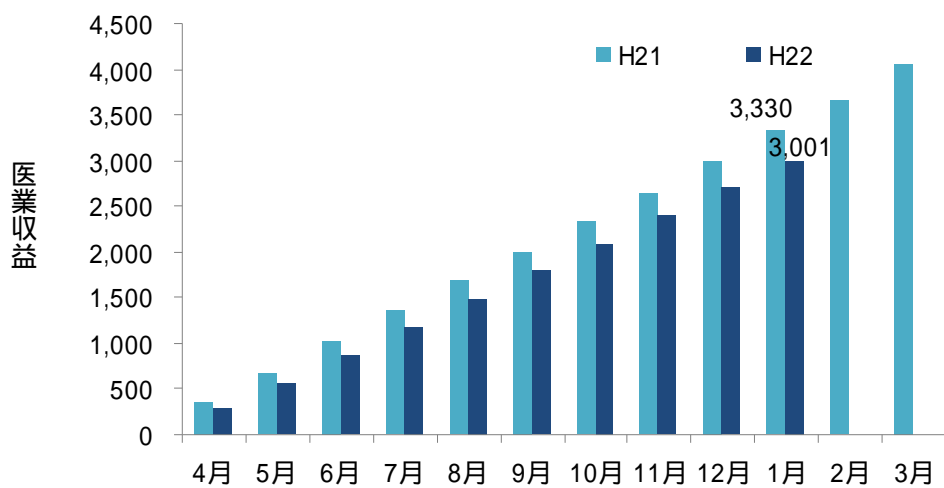
医業外費用 7百万円

経常損益

•経常損益は、改革プランより 171百万円の見込み。

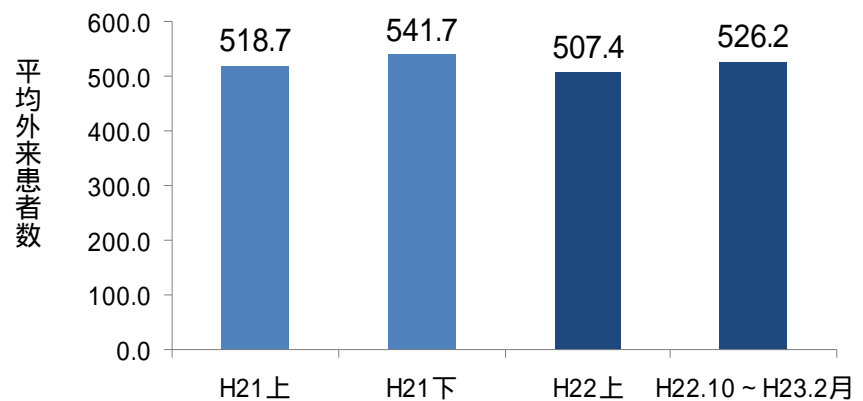
医業収益と患者数の状況(H21、H22年度比較)

医業収益(百万円)の推移



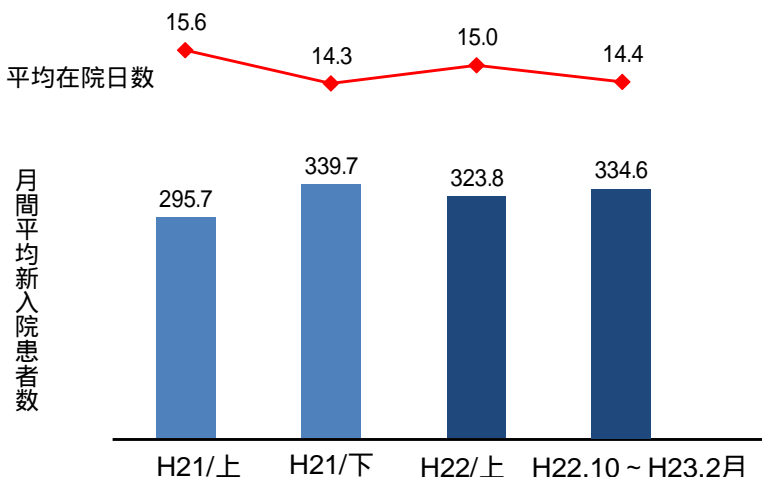
•医業収益は、外来調剤の院外処方化により、前年度を下回っている。
 医業収益には、その他医業収益のうち一般会計繰入金は含まれない。

平均外来患者数(人)の推移



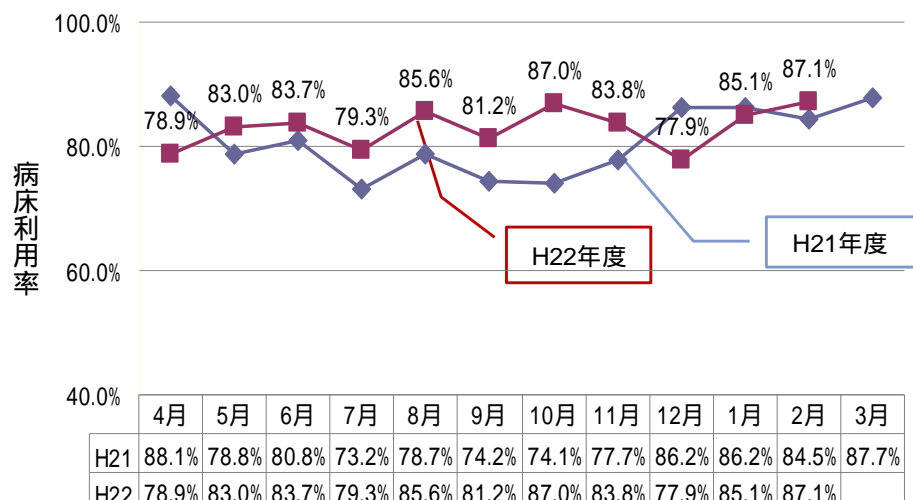
•H21年度と比較し、H22年度上半期は、外来患者数は減少したが、H22.10~H23.2月は、増加に転じている。

平均在院日数(日)と月間平均新入院患者数(人)の推移



•平均在院日数は、約15日で推移し続けている。
 •月間平均新入院患者数は、H21年度下半期を下回っているが、H22.10~H23.2月は、H22年度上半期に比べ、増加している。

病床利用率(%)の推移



•病床利用率は、H22年4月、12月、1月を除き、前年度実績を上回った。